

変化を楽しみ、しなやかに生きる

語り手 福井彩香（二期生 医療系）

聞き手 西田玲那

*

バトントワリング部

―バトントワリング部に入っていたと自己紹介のカードで見たんですが、当時からかなり忙しい感じでしたか？

私は立守の二期生なんやけど、当時は移行期で三年生は守山市立守山女子高等学校の先輩で、私たちとはカリキュラムも違って、三年生の方が授業が早く終わるのに、私たちはそれより早く部活に行かなあかんみたいなの。その意味では、忙しいというか、厳しかった。

―厳しい部活でよくある感じですね（笑）。

そうそう。毎日授業終わったらめっちゃ急いで準備してた（笑）。朝練と夕練をして、そのあとにちよつと居残り、という感じ。途中から立命館大学からコーチが来て教えてくれるようになって、部活自体も進め方とかも変わる過渡期やったかな。

―バトン部は今全国大会にも出ていると聞きましたが、福井さんの時も出ていたんですか？

私の頃はコンペティションというより、総文祭（全国高等学校総合文化祭）という全国の文化系の高校生が集まる場所で演技するような大会が中心で、私が卒業してから出る大会も増えたし、格段にレベルアップしてる。

―どういふものをモチベーションというか何を目標として、部活やってましたか？

私が？

―いえ、部活全体としてです。

なんやろ、表現したいとか、みんなで目指したい熱中したい気持ちがあった気がする。大会以外にも、文化祭や市のイベントでも演技していて、数ヶ月おきに発表の場があつて。私たちのときは、文化祭などは上級生が全体の構成を考えて、大変だけど面白かったな。そして、みんなほんと必死で、入ったからにはやりきろうって感じもあったかも。

―部員数は多かったですか？

そんなに多くなくて、私の同期で八人くらいかな。吹奏楽部を立ち上げのタイミングで二人抜けたり、他の部活も含め立ち上げの最中という感じやった。

―その時の学校全体の雰囲気ってどんな感じでした？

いろんなものが試行錯誤しながら作られているっていう感じ。

今思うと、先生の年齢とかを考えると、大学卒業してすぐぐらいの先生とかもいらつしやったりして、先生も学校も生徒も試行錯誤してたと思う。

でも、その試行錯誤な感じをみんな楽しんでた気がするし、少なくとも私はそうだったかな。私はバトン部だったけど、化学がすごい好きでサイエンス部と兼部してて、筑波大学の研修プログラムに応募して、休

みを合わせたりしてそっちに参加してみたいな。今もそうかもしれないけど、型にはまってる分、柔軟にできた気がする。おかげですと部活と勉強しかしてない高校生活やったけど（笑）。

*

勉強

私は、プロフィールにも書いてたけど、小学校と中学校のときに拒食症になって、当時学校にいてない時期もあったりして。でも、勉強するとか、何かものを学ぶってこと自体は好きで。今でも、読書会とか対話の場などを他分野の友人として。知らない世界を知りたくて、その世界を知るために勉強したいなって思ってた。

勉強は得意ではないけど、やり続けたらなんかわかるってなって。そうになったら楽しい。自分の好きなことじゃないとしんどくて、でも「好きなもの何？」って聞かれても、絶対これっていうのはないんやけど（笑）。

—私も全然好きなところ見つからないです（笑）。逆に、苦手意識があった教科ってありますか？

めっちゃめっちゃ英語が苦手。中学の時はほんまにやばかった。be動詞わかりません、くらいで（笑）。高校一年生の最初の英語のテキストが『READ AND THINK!』っていうアメリカのかな？そのテキストの最初のテーマが、What is beauty?。で、スーパースーパーモデルやバービー人形がつくる美しさの基準が、過度なダイエットに繋がり、摂食障害など健康

にも影響してるという内容だった。当時、自分は周りの人に拒食症（摂食障害の一つ）だったことは言ってなかったし、どう話していいかもわからなかった。

でも、このテキストを読んで拒食症が個人的な問題じゃなくて社会の問題として考えられるんやって知って、もっと世の中のことを知りたいなと思ったし、ここに書いていることを理解したいから、英語を勉強したいと思ったし頑張ったかな。でも初回のテストでは、六十点とかそのくらいやったけど。他の教科は、自分で言うのもあれやけど八十点、九十点とか結構高得点取ってたのに、英語だけ…（笑）。その後も留学生が来ることになって一緒にいたりとか、高校生国際水フォーラムを運営する機会があつて。英語が「勉強のための勉強」じゃなくて、「自分が生きていくためのスキルを身につける」という考えになってからは、苦手意識が減ってやりたいなって思えるようになったし、英語も人並みにはできるようになったかな（笑）。

*

薬学部

—高校で進路選びはどのように決めていましたか？

大学に行ったら理系って決めてたから、逆に高校時代に文系科目をやるうと思つて文理融合コースを選んだ。薬学部か生命科学部かで悩んだし、理工学部は若干興味はあつた。けど、最終的に薬学を選んだのは、昔入院してたこともあつて医療系に進むのがいいかなと思つたの

と、親を安心させたい気持ちもあった。あとは今だから言えるけど、せっかくなら、偏差値が高いところに行っておいたらいかなという思いもここだけの話あったかな。

—私自身、来年文系に変えるかもって悩んで、学部もすごく悩めます。大学の学部や将来の職業などを考えたら理系の方が選択肢が広がるのかなって思っているんですけど、文系の方が実際楽そうではあって…。

一つ言えるのは学部選びは一生ではないということ。

私は薬学部に進学し、最初は大学病院で薬剤師をしてたんやけど、学会発表とかもさせてもらって、学びも多くあったし、大変やけどめちゃ楽しかった。もちろん就職したときは辞めるつもりもなかったし。でも、自分のフェーズが変わる中で、自分が挑戦できる幅を広げたいと思って、キャリアを変えることにして、IT系のスタートアップに行って、その後メガベンチャーを経て、今は医療系のコンサルをしてる。

薬剤師をやめたからこそ、薬剤師ってすごく大事な職種だなと思ったし本当に尊敬しているけれど、でも同時に薬剤師に捉われずにキャリアを変えてもいいというのも分かった。変えたから全てなくなるわけではなくて、薬剤師やIT企業のときの考え方や経験、プライベートでの様々な出会いや挑戦が積み重なって今の仕事や生活があると思う。だから、選択は一生ではなくて、積み重ねの要素の一つやなって思う。

実際は不安もあるし、うまくいかないこともめっちゃあるけれど、先のことを考え過ぎて、今大切だと思うことを選ばないでおくのは違う気がする。少なくとも私は未来を計画して逆算的に生きるのはあってないな

って思ったし、そのタイミングで熱中できる、やりたいと思えるものを選んで、努力して、力にしていけることに意味があるんじゃないかな。

—なるほど、薬学でしんどいと思ったことはありませんか？

大変は大変やったな。勉強がと言うよりもプレッシャー的な方がしんどかったかも。学部で成績が良かった分、なんか成績落とせへんみたいな感じがあつて。テスト前に、勉強好きなのにやだなという気持ちになったし、テスト悪かったらみんなに幻滅されるかもしれへん、みたいな。今ならそんなことないって言えるけど、変なプレッシャーはあったな(笑)。

*

挑戦

大学の自治会(大学の生徒会的な組織)の薬学部の副会長をしてたんやけど、結構ストイックにやってしまつて、メンバーが辞めちゃうこともあったりして…。自分のマネジメントやコミュニケーションの課題をすごく感じた。だから、自分の当たり前を人に押し付けないとか、ちゃんとその人に頼るってことをやらなかんと思った。

自治会は二年生までやって辞めたんやけど、そのタイミングで先輩から東京で世界の薬学生が集まる会に参加しない？と誘われて参加して。めちゃ楽しかったんやけど、活動が関東中心やったから、関西でもやりたいなと思って、仲が良かったメンバーと一緒に関西支部を立ち上げたんよね。これがいい経験になって、当時、支部の設立メンバーのなか私が一番年下だったから、相談したり、悩んでますって弱さを見せることができたんよね、嬉しくて思わず泣いてしまったりもして(笑)。で

も、そうやって頼ることで、得意なことを活かして、支えあったりできて、人に頼るってこういうことなんだな、って実感した。

―結構、大学の時も挑戦多かったですか？

そうね。今もやけど何かしたいって気持ちが強くて。色々な集まりとか、企画運営したりしてた。大学の時は変な焦りもあって、自分がやらなきゃって思ってたな。

今はもう少し落ち着いて、自分が大切にしたいことを、ゆっくりでもいいから誰かと一緒につくっていききたいという思いが強いかな。でも、当時の焦りも含めた「やらなきゃ」って思いや、がむしやらに動いてた時に身につけた行動力とかスキルは今も確実に生きてると思う。

―大学卒業後、結構職を転々とされたと伺いましたが、それは「合わないかった」からというより「新しいことに挑戦したかった」からですか？

そうね。そっち(挑戦)の方が強いかなって思ってた、結構キャリア変えてるよねって、言われるんやけど、振り返ったら意外と地続きなんよね。薬剤師が最初のキャリアやったけど、私は薬学以外の友人も多くて大企業でみんなすごくバリバリ働いてて、これでいいんかなって考え思ってた。その時は研究もしてたから大学院に進むか、全く違う一般企業に行くか悩んだんやけど、研究はすごい好きだけど研究者になりたいわけでもなかったし、何十年後の自分のイメージが描けなくて。二十代だし第二新卒としてキャリアアチェンジすることにした。

自分の気持ちを押し殺しちゃったら、何年後かにこれで良かったのかなって思っちゃいそうやし。このままでいいのかなとか、あわへんかもって思うなら、後悔するより、失敗してももう一回やればいいやって感じやったな。

その後、コスタートアップに行ったけど、コロナで仕事を減えざるをえなくなつて。スタートアップ行くタイミングで医療業界からは離れてたんやけど、なんだかんだ、六年勉強して四年現場にいたのもあるから、医療は離れたからこそ関心あるなって思ってた。でも、病院とか現場に戻るイメージはわかへんかったから、オンライン診療やオンライン服薬指導のサービスを作っているIT企業に転職して三年半くらい仕事したかな。

―転職するのって想像に過ぎないんですけど、負担っていうか…。簡単に決められるものではないなって思ってた。私は何かしたいことがあっても結構考えてしまうタイプで物事がいい方向に向かうかどうかとか結構怖くなって感じてしまうんですけどそういうのはありましたか？

あったし、今でも全然あるけど、ここでこどもモヤモヤし続ける方が嫌やなって思う。

働きながらも、常に自分に変化しているし、いきなりパンツと変えるというより、いろんな段階を経てゆっくり変わっていくなと思うし。

―チャレンジする時も、思い立ったらすぐ動くタイプですか？

んー、小さなことを一回やってみるかな。例えばだけど、昔は本を作るってめちゃすごい人がするって思ってたけど、でも、フリーペーパーみたいなものなら一日くらいで作れるし、印刷代も三千円くらい。難しいって思ってたも、実は簡単にできることって案内多くて。これは本の話やけど、キャリアでもなんでも、ちょっとだけやってみることってもってあってもええんちゃうかな。

—今後、これからやってみたいこととか、将来のビジョンはありますか？

将来を描いてるわけじゃなくて、本当にやりたいことを着実に真剣にやってきたら今のキャリアがある。私は医療をベースにはあるけれど、医療だけに興味がある人ではなくて、もっと人とか社会との関わりに興味があったりする。

昔は全部自分で勉強しようとしてたけど、それは人生何年あっても無理やから(笑) でもそれで、諦めるんじゃないくて、色々な分野の人と一緒に考えたりできたらええなと思っていて。今は、ハブ的な存在として、人と人、分野と分野をつなげるネットワークを作っていきたいなっと思う。

*

人生での経験

—人生で大事にしてる言葉とか、考えて何かありますか？

昔、病気(拒食症)になったこととかも、ポジティブに捉えているわけではないけど、マイナスでもなくて。ただひとつの事実だと思うよね。拒食症になって、自分の感情に向き合うことで、周囲に過剰にあわせるのではなく、他者に自分の意見を伝えられるようになったし、いい意味で楽観的に生きられるようになった。なんかもっと自由にしていいんだなって思えた。

だから、今でも仕事とかで頑張りすぎて疲れたら、猫を追いかけたら、山の中に行ったりする(笑) でもそのくらいのギャップを意図的に持つことで、こうならなきゃみたいな世の中の「当たり前」にあわせるのではなく、自分が何を大切に思うのかを考えることができると思う。意図的に、思考を崩していくようにしてるかな。

—何か影響を受けたとか、自分の中の考えが変わった人はいいますか？

明確にこの人というよりは、今まで会ってきた人たち全員から影響を受けているかな。私の周りには、これやりたいと思ったからやる、みたいな感じで自由に行動というか、ルールにのるのではなく自分の意思で生活している人が多くて。私は自由なようで、結構真面目に生きてきたから(笑)。自分が想像するよりも、人生の選択肢って大きいのかもしれないなって、いつも周りから教えてもらってるし、そんな感じで日々影響を受けているかも。

*

—もし高校生に戻れるなら、「あのときこうしておけばよかったな」と思うことはありますか？

当時内部進学が主軸だったし、その前提だったけど頑張ってた他の世界を見るという選択肢を持ってみたかったかな。恋愛も全然してなかったから、もう少し学生生活を満喫してもよかったなとかも(笑)。同級生とか彼氏待ってるって言っても、「その時間もつたいないから勉強しよう」みたいな感じやったし。まあでも、その時頑張ってたからこそ今の自分があるし、何が正解かはわからんけど。

—自分の中で「青春だったな」と感じたことはありますか？

部活で、みんなで一つの目標に向かって頑張ることかな。体力なかったし、ついてくのに大変やったけど、みんなで頑張ってるその過程が楽しかった。

*

—今日は長い時間インタビューさせていただいてありがとうございます。

いえいえ。頑張ってたね。私もいい経験になった。ありがとう。

【感想】

福井さんの転職や大学時代の自治会など様々なことから小さなことからもチャレンジしていく気持ちが大切だと学ぶことができた。勉強への考え方捉え方も、私にはないようなものが多く、学びが多かったインタビューになった。将来のことも見据えなが今しかできない経験を大切にしていきたい。福井さんから教えていただいたことを活かしてこれからの高校生活も充実したものにしていきたい。



右	語り手	福井彩香さん
左	聞き手	西田玲那